

会員互選句

「けやき俳句の会」会報(第二百十六回)

令和三年九月一日

第二百十五句会記録

★日時 令和三年九月一日

★場所 メール句会(各自宅)

★参加者二十一名 (総数六十三句)

★真樹先生投句(○内の数字は得票数)

- ②物わかり良きふりをして八月逝く
- ①萩月や父が遺した鍵の束
- ①星流る対処療法ばかりなり

★真樹先生選句(○は特選)

- ③ 蝨斯が謂れを語る五合庵
- ② 林檎挽ぎ齧ればほのと陽の香り
- ① 笹舟に乗せてまたねと送り盆
- ① 秋雨やバス待つ小さな傘前に
- ⑤ 花山葵常念岳に生るる水
- ③ 往きかえりサルビアの赤静かなり
- ③ 夕霧の海の遥かにダイヤ富士
- ③ 包丁研ぐ無心になれば涼新た
- ③ 飛石に蜻蛉休みて足止める
- ③ 真鯛の恵み塩焼き晩酌に
- ③ 臺洗ふ全自動とや寺の鐘
- ③ 初もぎの南瓜両手に重々し
- ② 新型コロナの恐怖二年目秋来るも
- ② 葡萄の房たわわ園児ら来ぬままに
- ② おしろいや遊びし花と母のいふ
- ① 掃除機の音に飛び出だす秋の蚊よ
- ① ラ・フランス四五日香り楽しん
- ① 秋風鈴寂びてひそかな音色かな

- ⑥ 秋灯下太宰の生きるを読み返す 紀泉
- ④ 秋茄子の糠漬卓に食戻る 真弓
- ④ 天高し勇姿気高きバラリアン 樹音
- ④ 両の手にずしりふくしま桃めぐる 藍愛
- ④ 底紅や闇淡くして咲き残り 廣川
- ③ 八月や残りし者の日々過ぐる 冬水
- ③ 処暑の夕豆煮る匂い風にのり 藍愛
- ③ 包み紙香りほんのり切山椒 東洋
- ③ 盆用意仕上げは母の出番なり 鳴石
- ② 変る町時代の記憶鱗雲 香魚
- ② 拍子よく単線囃す虫時雨 香魚
- ② 夏の多雨破れトマトの鼓動きく 清明
- ② ががんぼの脚長きゆえ取り乱す 清明
- ② のめり込み歪んで見える大暑かな 夢城
- ② 蝸の暇もなきや陽のなごり 真弓
- ② 殺戮は許さぬ誓ひ原爆忌 渡辺
- ② 法師蟬夕餉の支度せかさるる 可良
- ① 孫とやる「まちがいがし」長き夜や 誠
- ① 匂いする焼もろこしの正油かな 誠
- ① 沙羅の花次々と落花又咲いて 青嵐
- ① 廃校のこわれ垣根に野菊さく 而今
- ① 白雲やへの字への字の秋の空 隼人
- ① 稲妻や光る少女の髪ばさみ 隼人
- ① 底紅の紅も見せず霖雨かな 真弓
- ① 鬱に慣れたまの会話に声弾み 蕉哉
- ① 朝顔や母行きつけの美容室 鳴石
- ① 秋涼し父と向き合ふ展墓かな 廣川
- ① 月見酒呵呵大笑の羅漢像 渡辺

【次回開催】

令和三年十月六日

三句提出

夢城

東洋

東洋

可良

藍愛

紀泉

鳴石

渡辺

冬水

樹音

紀泉

盈光

青嵐

清明

一華

蕉哉

一華

香魚

紀泉

真弓

樹音

藍愛

廣川

冬水

藍愛

東洋

鳴石

香魚

香魚

清明

清明

夢城

真弓

渡辺

可良

誠

誠

青嵐

而今

隼人

隼人

真弓

蕉哉

鳴石

廣川

渡辺